

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大島支庁農政普及課

課題名① さとうきび産地に欠かせないハーベスタ組織の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	3	1		・人材不足は今後、大きな課題となってくると思うので、興味を持ってもらう機会を今後も作ってほしい。	・今後も普及計画に挙げている新規オペレーター確保の取組支援として、継続して興味を持ってもらう機会を作っていく。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	1		・Excelによるコスト試算表は、目に見えてよいと思いました。オペレーター研修会での発表も良いと思いました。 ・コスト把握を簡単にできるようになったことで経営改善につながるであろう一方、ハーベスタの雇用者の賃金が重くなっている場合、どのような改善をはかるのか気になった。	・これまでの試算は、労働時間が概算であることから、「雇用者の賃金が重くなっている」との結果が出ている可能性がある。そのため、今後はより実態に近いデータでの試算、検討と提案活動を図る。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか		3			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	2		・コスト試算をExcelで計算できるようにしたこと、コストを下げるための栽培体系が明確となったとのことで、農家の栽培方針が定めやすくなったと思った。	・今後は、コスト試算結果に基づくカウンセリング活動を行っていく。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	1			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	2			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大島支庁農政普及課

課題名① さとうきび産地に欠かせないハーベスタ組織の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	9	1		・人口減社会の中で、就労者を確保することを課題にしたことは、これからの農業(畜産)の魅力を発信するために必要な課題、他の農業にも参考になる。 ・農業従事者の高齢化不足に着眼していることが評価できると思う。 ・オペレーターの高齢化や人材不足といった産地の根幹課題を的確に捉えている。 ・さとうきび産地においてはハーベスタ組織の育成は不可欠である。 ・重要である。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	9	1		・具体的に地域と連携して対象を選定していると感じられた。 ・人材確保と組織運営の安定化を目的としているが、達成水準の明確化が望まれる。	
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	7	2	1	③製糖会社に加わっていることもよかった。 ④時期がいつ頃が良いのか判断が難しい。 ⑤誰にでも使用しやすいシステムを作成したことは評価できる。 ・関係機関が役割分担のもと連携し、円滑な事業実施が図られている。 ・喜界島に偏っているように感じられた。奄美大島と喜界島では規模も生産農家数も違うので別々な育成方法があるのでは？ ・関係機関との連携を密にすることが大事だと思う。	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	7			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	5	1		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	6		⑥対象者(組織)の意識の変化はこれから良い方向に向かう可能性を感じた。 ⑦意識の変化があったことは大きな進歩である。 ・農家の生産コストへの意識付けに効果があると思う。 ・経営コスト試算システムの構築は、今後の課題解決に寄与するものと思われる。 ・新規オペレーターの確保や、組織へのフィードバック等活動の成果が見られた。 ・今後も課題解決に大いに取り組んでいただきたい。	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	7	3			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	5	4	1	⑧コストに対して考え方については他の農業者にも参考になる。 ⑨定期的な取組評価できる仕組みを導入したことで継続性が見込まれる。 ・事業終了後も継続可能な人材育成、経営管理体制の構築が課題である。 ・担い手不足の解消について具体的な提言が欲しかった。	
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	6	1		



さとうきび産地に欠かせない
ハーベスタ組織の育成

大島支庁農政普及課

1

本取組の背景

～各島におけるさとうきび栽培の現状～

【奄美大島】（R6年産）

・農家戸数 373戸
・収穫面積 557ha
・生産量 26,651t
HV収穫率 約97%

【喜界島】（R6年産）

・農家戸数 448戸
・収穫面積 1,357ha
・生産量 67,121t
HV収穫率 約99%

さとうきび栽培の中で最も重労働なのは。。**収穫作業**



➡ **ハーベスタは欠かせない存在**

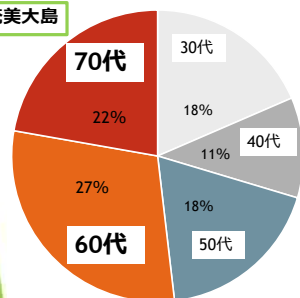
2

ハーベスタ組織の現状

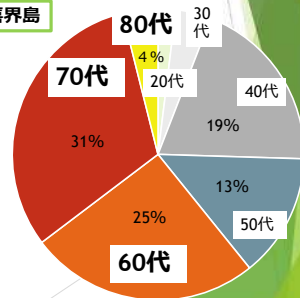
	HV組織数 (機械台数)	オペレーター 人数 (人)	特徴
奄美大島	13 (22)	27	HV所有者 = 組織
喜界島	76 (78)	102	HV所有者 = 農家

【オペレーターの年齢構成】

奄美大島



喜界島



3

ハーベスタ組織が抱える問題

人材確保面

将来的なオペレーターの不足

- ・オペレーターの高齢化
- ・後継者が確保できていない（大島，R6聞き取り調査より）
- ・他産業との競合で季節雇用の人材確保が年々困難に（大島）

経営面

収益性不明のままの経営

- ・収穫にかかる各種コストの上昇
- ・ハーベスタの老朽化が進むが金銭的に更新の余裕がない
- ・収穫にかかるコストを把握できていない組織もある

産地の維持に必要な不可欠なハーベスタ組織が減少し

将来不足する可能性がある

4

取り組んだ課題と目標

現状

- ・将来的なオペレーター不足
- ・収益性が不明のままの経営

課題

①新規オペレーターの確保

- ・検討会の開催による課題意識の醸成
- ・検討会で出たアイデアの実施

②ハーベスタ組織の経営管理能力の向上

- ・収穫にかかるコスト把握の促進
- ・さとうきび収穫コスト試算結果に基づくカウンセリング

目標

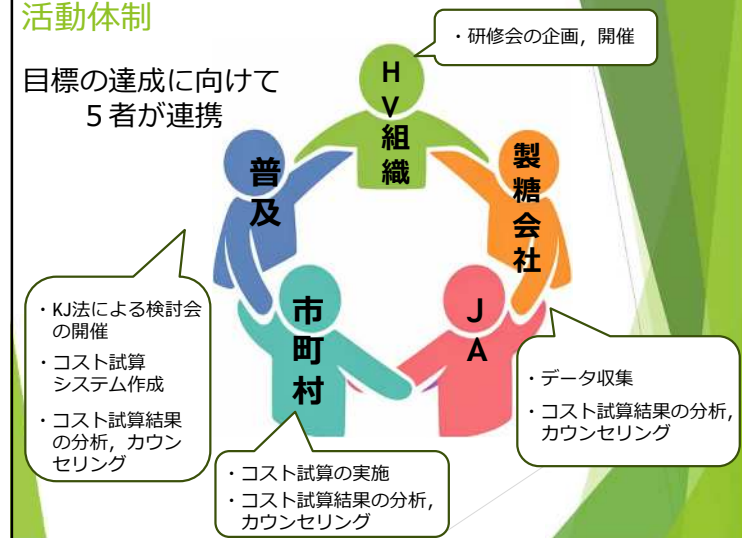
ハーベスタ組織の経営安定

- ①新規オペレーターの確保 2人 (R9目標)
- ②受託コスト理解組織 20組織 (R7目標)

5

活動体制

目標の達成に向けて
5者が連携



6

普及活動

①新規オペレーターの確保

◇取組内容

- ・KJ法を使った検討会
- ・現状の共有



▲R6.11 奄美大島

▲R5.9 喜界島

- ・オペレーター確保に向けて様々な角度から意見が出された。
- ・検討の結果, HVの体験機会の創出や島内でHVに乗れる人を増やすことに力を入れることが決まる。

7

普及活動

①新規オペレーターの確保

◇取組内容

【奄美大島】

- ・農機展示会来場者を対象とした試乗会
- ・HV補助員を対象とした体験会

【喜界島】

- ・HV購入希望の若手生産者および島内の他産業従事者を対象とした研修会

	参加者 (R6～R7のべ人数)
奄美大島	21人
喜界島	9人



▲R7.6 奄美大島



▲R6.11 喜界島

8

普及活動
①新規オペレーターの確保

成果

- ・喜界町HV連絡協議会の活動計画に、試乗会が組み込まれるなどオペレーター確保に向けて、**課題意識の醸成**につながった
- ・新規オペレーターを**各島1人確保**

	参加者（R6～R7のべ人数）	R7/8期新規オペレーター
奄美大島	21人	1人
喜界島	9人	1人

9

普及活動
②ハーベスタ組織の経営管理能力の向上

◇取組内容

- ・HV連絡協議会役員と連携し、さとうきび収穫1tあたりコスト算出に必要な要素を整理
- ・パソコンを使える人であれば誰でも試算できるようにExcelでコスト試算システムを作成



さとうきび収穫1tあたりコスト					
5,637 円/t					

さとうきび収穫1tあたりにかかる経費①					
オペレーター費	燃料費	機械代	修繕費	動力燃料費	小計
764	1,527	31	923	902	4,147
余力不足分 776					

さとうきび収穫1tあたりにかかる経費②					
租税公課	小農具費	農用飲料費	農薬費	肥料料金	雑費
43	8	5	3	470	85
小計 100					
714					

10

普及活動
②ハーベスタ組織の経営管理能力の向上

◇取組内容

- ・作成したコスト試算システムを用いてコスト試算を実施
- ・コスト試算実施の呼びかけ



▲R6 喜界町

▲R6 喜界町

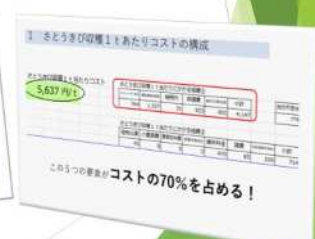
11

普及活動
②ハーベスタ組織の経営管理能力の向上

◇取組内容

- ・コスト試算結果に基づく研修会

➡ ハーベスタオペレーター等約**50人が参加**

▲R7.11 喜界町

12

普及活動
②ハーベスタ組織の経営管理能力の向上

◇取組内容

- コスト試算結果の分析、コスト低減に向けた改善策の提案

16年産とうきび収穫1t当たりコスト試算結果について
※試算日 1月13日
大島県庁 農林

組織A：収穫面積約10ha 単収約3.0t
コスト約10,000円（委託料+6,000円）

コスト試算でわかったこと

- 雇用費がコストの60%を占める
- 単収が5.0t/10aまで向上→5,500円/t
- 面積が20haまで拡大→6,000円/t

↓

- 今までコストを意識したことがなかった。
- まずは労働時間を見直したい。

13

普及活動
②ハーベスタ組織の経営管理能力の向上

成果

①コスト試算の取り組みが拡大

	コスト理解組織数
奄美大島	9
喜界島	46

②コスト試算の結果をハーベスタ組織へフィードバック

- 収穫コストの約70%をオペレーター賃金、補助員雇用費、減価償却費、修繕費、動力光熱水費が占める
- 収穫コストは3,900円～13,816円と組織によって大きな差あり
- 収穫面積が大きく、収穫量が多く、単収が高いほどコストが低下

ハーベスタ組織のコストに対する意識が変化

14

残された課題と今後の対応
①新規オペレーターの定着（奄美大島）

研修会で見てきたこと

- 参加者は研修会を評価しているものの、従事意向にギャップが見られる。

課題

- 研修会参加者が実際に新規オペレーターとして従事するまでのハードルの解消

対応

- 研修会参加者への追跡調査
- 既存雇用オペレーターに対して聞き取り調査
 - オペレーター仕事の経緯
 - 作業に慣れるために工夫したこと
 - オペレーターになる前に欲しかった支援
- 関係機関で支援できることを整理

新規オペレーター

15

残された課題と今後の対応
②コスト試算結果に基づくカウンセリングの拡大

現状

	コスト理解組織数	カウンセリング未実施数
奄美大島	9	8
喜界島	46	46

課題

ほかの54組織へカウンセリングを拡大

対応

把握した平均コストなどのデータを関係機関とともに分析、コスト低減に向けて提案

↓

- 自分の経営の立ち位置を知ってもらう。
- 改善点を見出してもらう。

製糖期終了後に繰り返し行い、定着を図る

16

ご清聴ありがとうございました。

